

5 / 3 1 住環境コミュニティ部会での関連意見

※速報版

■高齢者の孤立について

- ひとり暮らしの高齢者の孤立が問題。外に出て人と話す場がないように思う。
- 「すこやかリビング」は知らない人も多い。また、そういった場に出てくる人はよいが、出てきたがらない人が問題。
- ふれあい喫茶のようなものだけでなく、例えば麻雀やカードゲームなどをすれば出てくる人もいるのではないか。
- 仕事を引退した人が、小遣い稼ぎをできる作業場のようなものが有効ではないか。
- 作業場は、以前にやったことがあるが、皆さん飽きるのか、あまり続かなかった。

■建替を待つ市営住宅について

- 和泉第一住宅では、募集停止しているため空き家が全体の約 1/3 を占めている。入居者が減り、つながりが減ったことで、高齢者の孤立が心配。
- エレベーターが偶数階にしか止まらず、奇数階に住む高齢者にとって不便。偶数階への移転支援や、緊急通報装置など、建替えまでの間、高齢者を支える方策が必要。
⇒緊急通報装置については、和泉市で高齢者に貸し出す制度がある。
- 市営住宅の戸数が減るのをただ待つだけでなく、地域の課題をみんなで具体的に取組むことでコミュニティを維持できるよう、目標を立てるべき。

参考：将来目指したいコミュニティについて

- 今あるコミュニティがバラバラにならずに維持できるような取組が必要。
- 診療所を中心に高齢者や障がい者向けの住宅を集めた福祉ゾーンを作るのはどうか。
- 理想としては、高齢者と若者の住む場所を分けずに、市営住宅の下階に高齢者、上階に若者を住ませるなどの多世代がミックスしたコミュニティを作りたい。
- 子育てに課題を持った家庭なども安心して住めるまち、まわりが手をさしのべることができるまちなので、今のまちの良さを継承したい。

参考：地域の施設について

- にじのとしょかん、青少年センターなど、地域の子育て（課題を持った家庭を含む）にとって大事な役割を果たしている。子育て世帯が住むまちを選ぶときのアピールポイントにできる。